

# 伝え合う力を高める学習指導

## - 「書くこと」を通して -

長期研修員 井 阪 恵 子  
Isaka Keiko

### 要 旨

「伝え合い」とは、互いの立場や考えを尊重しながら交流することである。本研究においては「書くこと」を通して伝え合う力を高めるために、子どもたちに身に付けさせたい能力を分析し、その系統を明らかにできるよう、能力表を作成した。また、2学年ごとのまとまりで6年分の年間指導計画を作成した。更に、具体的に単元を構想し、指導の在り方について研究を進めた。

キーワード： 伝え合う力、書くこと、能力表、年間指導計画

## 1 はじめに

現行の小学校学習指導要領において、国語科の目標として「伝え合う力を高める」ことが示されている。人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることが、改めて強調されたのである。

よりよい人間関係を築き互いに理解を深めるために、情報の送り手は、伝えようとすることを相手や目的、場に応じて適切に伝える力を身に付ける必要がある。また、受け手は、送り手の立場や考えを尊重しながら正確に理解し、適切に反応を発信していくことが大切である。このとき「伝え合い」が成立する。「伝え合う力」は、送り手と受け手とが相互に入れ替わりながら互いに高まり合っていくものである。

筆者はこれまで、小学校において伝え合う力を高めるために、「書くこと」を中心に研究・実践を行ってきた。各単元において、児童の実態に即して「書くこと」の指導を行ってきたつもりであったが、確かな力を身に付けさせることができたかといえれば疑問が残る。「書くこと」についての能力を明らかにし、系統立てて指導を行うことが十分ではなかったのである。

そこで、「書くこと」についての能力を分析し、6年間の系統を明らかにした上で、「伝え合う力を高める」ための「書くこと」の指導について研究し、今後の指導につなげたいと考えた。

## 2 研究目的

「書くこと」についての能力を分析し、その系統を明らかにするとともに、「伝え合う力を高める」指導の在り方について明らかにする。

## 3 研究方法

- (1) 「書くこと」の指導に関する先行文献及び実践の収集・分析
- (2) 「書くこと」についての能力分析
- (3) 「伝え合う力を高める」ための「書くこと」の学習指導についての探究

## 4 研究内容

- (1) 「書くこと」の指導について

「書くこと」の指導は、書いたものを伝える相手によって二つに分けることができる。一つは、自分自身を相手に設定した作文指導である。これは「生活綴り方」に代表され、じっくりと自己の生活や自分自身を見つめて書くことが大切にされている。他の一つは、他者を相手に設定した作文指導である。情報の伝達を目的とし、論理的な文章を書くことに指導の重点を置いている。

これまで前者に偏った作文指導が行われてきたために、社会に出てから必要とされるレポートや報告書といった、論理的な文章を書く力が十分に身に付けられていないのではないかという批判が起こった。現在は、前者のような作文指導を大切にしながらも、後者の作文指導の必要性が求められている。学習指導要領においても、目的や相手にかかわる指導事項が設定されており、筆者も、具体的に相手や目的を設定し、伝達・交流に主眼をおいた「書くこと」の指導の必要性を感じている。

このことを踏まえ、伝え合う力を高めるために、相手意識や目的意識を明確にし、場の意識、方法意識、評価意識も含めた五つの言語意識に留意して、適切に伝えたり正確に理解したりする力を身に付けさせる必要があると考えた。

## (2) 「説明文」を中心とした「書くこと」の能力表の作成

### ア 能力表作成の意図

学校現場において指導を行うに当たっては、学習指導要領に示されている指導事項を具体化し、学年に応じて身に付けさせるべき能力やその系統を明らかにすることが大切である。そのために、能力表を作成する必要があると考えた。

伝え合う力を高めるためには、相手意識や目的意識を明確にし、伝達・交流に主眼をおいた文章を書くための力を身に付けさせる必要がある。このような文章は、その形態から、説明的文章であるといえる。説明的文章は、内容・形式・目的などから、説明文・意見文・記録文・報告文・通知文・報道文などに分類される。

実際に小学校において展開されている説明的文章の指導においては、事物の説明や方法の説明といった説明文の指導だけにとどまらず、意見文・報告文・報道文といった説明的要素をもつ文章を書く指導も行われている。しかし、それらの文章においても、必要とされる能力については、説明文を書くときに必要な能力と重なる部分が多い。このような理由で、本研究においては、「説明文」を中心とした「書くこと」の能力表を作成した。

### イ 能力表作成の手順

まず、学習指導要領にある指導事項や言語活動例について調べた。次に、文献等において、諸氏の述べる「書くこと」の能力について調べた。そして、現在使用されている教科書等を基に、小学校における学習の単元や内容を調べ、それぞれの単元において必要な「書くこと」の能力の分析を行った。これらのことを通して、小学校において身に付けさせたい「書くこと」の能力を列挙した。最後に、それらの能力から「説明文」を中心とした「書くこと」の能力を抽出した。

### ウ 能力表の構成

能力表は、四つの項目で構成している。最も上位の項目として、学習指導要領「B書くこと」の内容を挙げた。次に、その内容を具体化した場合どのような能力が必要であるのかという分類を、中位の能力として示した。そして、この項目の低位能力として、「説明の能力」を示した。また、それぞれの能力について、重点的に身に付けさせたい学年を示し、学年の発達段階に応じて系統的に見ることができるようにした(表1)。

### エ 能力表の活用

この能力表は、6年間において身に付けさせたい「説明文を中心とした書くこと」の内容と系統を示している。実際に指導を行う際に、身に付けさせたい力を具体的にイメージし、各単元や毎時間の具体的な学習活動における評価規準を作成する際の資料として用いることができる。

表1 「説明文」を中心とした「書くこと」の能力表（一部）

※◎は、特にその学年で身に付けさせたい力

学習指導要領の内容	学習指導要領の内容	番号	具体的な能力	低学年	中学年	高学年
ア 相手目的	(1) 相手を考える力	1	・相手を意識して書く	◎	○	○
		2	・相手が必要としている内容を推察する		◎	○
		3	・相手に応じて適切に説明する事柄を考える		◎	○
		4	・相手に応じて効果的に説明する事柄を考える		○	◎
	(2) 目的を考える力	5	・目的を考えて書く	◎	○	○
		6	・目的に応じて適切に説明する方法を考える		◎	○
		7	・目的に応じて適切に説明する項目を考える		◎	○
		8	・目的に応じて効果的に説明する方法を考える		○	◎
		9	・目的に応じて効果的に説明する項目を考える		○	◎
	(3) 見通しをもって書く力	10	・相手や目的を考えて、書く題材を見付ける	◎	○	○
		11	・相手や目的に応じて、書くための計画を立てる		◎	○
		12	・最終的な文章をイメージしたり、モデルとする説明文を選んだりする		○	◎
	(4) 書く内容について考える力	13	・相手や目的に応じて、書く題材を考える	◎	○	○
		14	・相手や目的に応じて、適切な題材を選択する		◎	○
		15	・相手や目的・意図に応じて、効果的な題材や内容を検討する		○	◎
イ 取材選材	(1) 取材の段階で必要な力	1	・伝えたい相手や目的を考えながら取材をする	◎	◎	◎
		2	・書くこととする内容について、関連のある事柄を思い出したり身の回りから探したりする	◎	○	○
		3	・相手の認知度を考えながら取材をする		◎	○
		4	・伝えたい相手や目的に応じて取材をする		◎	○
		5	・二つ以上のものを比較して説明しようとする場合、比較する項目に沿って取材する		◎	○
		6	・伝えたい相手や目的に応じて効果的に説明できるような事柄について取材をする		○	◎
		7	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする事柄を考えながら取材をする		○	◎
	(2) 選材の段階で必要な力	8	・相手や目的を考えながら、取材した事の中から必要な事柄を選ぶ	◎	○	
		9	・相手や目的に応じて、取材した事の中から必要な事柄を選ぶ	○	◎	
		10	・伝える相手や目的に応じて取材した事柄を分類・整理する	○	◎	

(3) 「説明文」を中心とした「書くこと」の年間指導計画の作成

ア 年間指導計画作成の意図

本研究においては、先に作成した能力表と関連をもたせて、「説明文」を中心とした「書くこと」の年間指導計画を作成した。

指導に当たっては、児童の実態を、身に付けている能力と学習経験との両方から把握することが必要である。このことによって、より児童の実態に即した指導を行うことができる。更に、その単元において身に付けた能力が、以降どのような学習を通して発展していくのかを知ることによって、見通しをもって指導を行うことができる。このような考えから、能力表と関連をさせて、6年分の年間指導計画を作成した。

イ 年間指導計画の工夫

- (ア) 学習指導要領「B書くこと」の内容に沿って、「2学年ごとのまとめ」と6年間の見通しを意識して作成した。
- (イ) 本研究において作成した能力表との関連を図りながら、評価規準も明らかにして示した。
- (ロ) 相手意識や目的意識、場の意識、方法意識、評価意識といった五つの言語意識について留意した。
- (ハ) 題材は、学年の発達段階に応じたものを用いるようにした。
- (ニ) 伝え合いを行う相手は、担任の先生や家族といった身近な他者から、学級の友達、他の学年の児童とるように、広がりをもつようにした。
- (ホ) 視写・聴写・暗写といった練習学習など、日常的な書く活動を大切にした。

ウ 年間指導計画の構成

年間指導計画は、指導する学年、学期、単元名、目標、主な学習活動、評価規準、能力表との関連、指導時数の8項目で構成されている。「能力表との関連」の項においては、能力表の中で用いている記号や番号と対応させて示し、その単元において身に付けさせたい能力が一目で分かるようにした(表2)。

エ 年間指導計画の活用

作成した年間指導計画は、伝え合う力を高めるための、「説明文」を中心とした「書くこと」の年間指導計画である。小学校においては、他の文種における書く活動や、日記のような日常的な書く活動も行われる。したがって、学校現場においては、児童の実態に即して必要に応じて修正を加えながら活用したい。また、他教科・領域等との関連も考慮に入れながら指導ができるよう、効果的に活用したい。

オ 「図版年間指導計画」の作成

年間指導計画を、2年間のまとめりとして一目で見ることができるよう図版のものも、あわせて作成した。

表2 「説明文」を中心とした「書くこと」の年間指導計画（第1学年及び第2学年）（一部）

※太字で示している単元については、後に単元構想を示す。

2	3		2	1	学年	
1	3		2	1	学期	
かんさつし たことをか こう	一年かんの せいちよう をいえのよ うにつたえよ		のりものの ことをしら べて、おし えよう	通年 視写・聴写 （第二学年 も同様）	単元名	
③ 既習の漢字を適切に用いて書く。	① 目的を考えて取材しようとする。 ② 観察したことについて、事柄のまとめを考えながら書く。 ③ 既習の漢字を適切に用いて書く。	① 意欲的に書くための事柄を見付けようとする。 ② 短い文章で説明する。 ③ 主語・述語の関係に注意して書く。	① 目的を考えて書くこととする。 ② 事柄のまとめを考えて、段落に分けて書く。 ③ 学習した文字を適切に用いて書く。	① 書く題材について、意欲的に取材しようとする。 ② 経験したことの順序に沿って書く。 ③ 書いた文章を声に出して読み返す。	① 文字を正しく整えて書写する。 ② 丁寧に書写する。	目標
④ ③ 観察したことを分かりやすく説明する。 ② メモの中から知らせたい事柄を選び、組立てを考える。 ① 身近な生き物を観察し、気付いた事柄や、知らせたい事柄をメモに書く。	⑤ ④ ③ 文章を読み返し、必要に応じて修正する。 ④ 事柄の順序を考えながら書く。 ③ 文章を読み返し、必要に応じて修正する。 ② メモを基にして、必要な事柄を取り出した順序を考えたりする。 ① 書く題材に必要な事柄を集め、メモを書く。	① 身の回りからいろいろな音を取材し、メモに書く。 ② メモを基にして、短い文章で説明する。 ③ メモを作らずに、他の音を説明する文章を書く。	① 調べたい乗り物を決め、本などで、働きやつくりについて調べる。 ② 調べた事柄をメモに書く。 ③ 簡単な組立てを考えて、乗り物の働きやつくりを説明する文章を書く。 ④ 書いたものを、間違いがないか確かめる目的で声に出して読む。 ⑤ 友達の文章を読み、感想を伝える。	① 休み時間にしたことの中から、知らせたいことを選ぶ。 ② 友達に伝える目的で、書くことを決める。 ③ 書いたものを声に出して読む。 ④ 書いたものを声に出して読む。 ⑤ 作文を友達と交換して読み合う。	① 短い語や文を見て書き写す。 ② 語句や簡単な文を聴いて書く。 ③ 既に暗記している語句・短い文などを何も見ないで書く。	学習活動
言 既習の漢字を適切に用いて書いています。	言 一年間の成長を振り返り、家族に伝える目的で、進んで材料を集めようとしている。 書 メモから必要な事柄を取り出し、順序を考えて書いている。 言 「は」「へ」及び「を」などの助詞を、文中で正しく使っている。	言 音に関心をもって、身の回りから書く事柄を集めようとしている。 書 短い文章で、自分が見付けた音について説明をしている。 言 主語と述語が照応するように書いている。	関 調べたい乗り物を決め、働きやつくりについて説明をする目的で、進んで活動しようとしている。 書 乗り物の働きやつくりなどのまとめりを考えて、段落に分けて書いている。 言 学習した平仮名や片仮名を適切に用いている。	関 休み時間の出来事を学級のみんなに知らせることに意欲をもって取り組もうとしている。 書 休み時間に経験したことを、順序よく書いている。 言 書いた文章を声に出して読み返している。	関 進んで書くようとしている。 言 正確に書いている。 関 文字の形に注意して書いている。	評価規準 関 国語への関心・意欲・態度 書 書くこと 言 言語についての知識・理解・技能
オエウイア (1)(3)(2)(1)(2) 1 42 5 2 1 5	エエウイア (3)(2)(2)(1)(1) 48 6 11 8 1 1	オエエイア (5)(3)(2)(1)(2) 48 56 7 2 5	オエエウウイア (1)(3)(2)(2)(1)(1) 4 43 8 5 11 2 1 1	オエウイア (1)(3)(2)(2)(1) 4 43 6 11 2 1	エエ (3)(3) 63	能力表との 関連 太字は特に 身に付けさ せたい能力
					時数	

(4) 単元構想

「一年かんのせいちょうをいえの人につたえよう」(第1学年)

ア 単元の概要

本単元は、第1学年の3学期に実施する。ここでは、小学校に入学してからこれまでに学習したことを題材として作文を書き、家族との伝え合いを行う。一年間のまとめの時期に、これまでの学習について振り返り、自己の成長を認識することは、児童にとって自己肯定感を高めることにつながる。更に、最も身近な家族にそのことを認めてもらうことは、今後の児童の学習意欲の高まりという点からも効果的である。この学習活動を通して、児童の一人一人の中に自らの学びへの自信が生まれ、次に学習を行うことへの意欲をもつことができる単元である。

イ 五つの言語意識からみた単元の特性

- (ア) 相手意識：家族との伝え合いを行う。
- (イ) 目的意識：学校の様子を知らない相手に、学習における成長やその喜びを伝える。
- (ウ) 場の意識：家庭に作文を持ち帰り、伝え合いを行う。
- (エ) 方法意識：説明を文章に表す。
- (オ) 評価意識：自分が最も伝えたい事柄が記述されているか、相手にとって分かりやすく記述されているか、という視点での評価を行う。家族からは、評価カードを手渡してもらう。

ウ 単元の目標

- (ア) 意欲的に伝える材料を集めようとする。
- (イ) 順序を意識して書く。
- (ウ) 助詞を正しく使う。

エ 身に付けさせたい能力

- (ア) 相手を意識して書く力・能力表 ア(1) 1
- (イ) 説明の順序を考える力・能力表 ウ(2) 11

オ 単元の評価規準

	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 書く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	一年間の成長を振り返り、進んで材料を集めようとしている。	メモから必要な事柄を取り出し、順序を考えて書いている。	「は」「へ」及び「を」などの助詞を、文中で正しく使っている。

カ 指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価規準と評価方法	指導
一	1 2	○書く題材に必要な事柄を集め、メモに書く。 ◇学習の記録を基にして、作文に書きたいことをワークシートに書く。	◎学習活動における具体的評価規準と評価方法 ◎一年間に学習したことについて使用した学習材や記録などを基にして、材料を集めようとしている。 <u>作文メモ</u> (図1)	□つまずきへの手立て □書きたいことが選べるように手がかりとなる材料を提示する。
二	3 4	○作文メモを基にして、必要な事柄を取り出したり、書く順序を考えたりする。 ◇メモを基に、必要な事柄を取り出す。 ◇取り出した事柄を基に、書く順序を考え、ワークシートに書く。	◎取材メモから必要なことを取り出し、順序を考えている。 <u>観察</u> <u>組立てメモ</u> (図2)	□取材した事柄の一つ一つについて、書きたい事柄と必要でない事柄とに分けるように指示する。 □取り出した事柄を時間の順序などに沿って並べ替えるように助言する。
三	5 6	○事柄の順序を考えながら書く。 ◇第二次において作成したワークシートを基にして、作文を書く。	◎伝えたいことの順序や時間の順序など、書く内容に応じて順序を考えて書いている。 ◎学習した平仮名や片仮名、漢字	□第二次において作成したワークシートを基にして、段落ごとに記述するように個別指導を行う。 □一覧表などを用いて文字を正しく表記でき

		を用いて表記している。 <b>作文</b>	るように支援する。
四	7	○文章を読み返し、必要に応じて修正する。 ◇作文とメモを照らし合わせる。 ◇書いた文章を、「は」「へ」「を」などの助詞に注意しながら声に出して読み返し、間違いがあれば修正する。	◎伝えたいことの順序や時間の順序など、書く内容に応じて順序を考えて書いている。 ◎「は」「へ」及び「を」などの助詞を、正しく使って文を書いている。 <b>観察 作文</b>
五	8	○学習のまとめと振り返りをする。 ◇「おへんじカード（家族からの評価カード）」を交流し合い、学習を振り返る。	◎学習を振り返り、「書くこと」に対して意欲的に取り組もうとしている。 <b>ワークシート</b>
			□順序や内容について分かりやすく書けているかという視点で読み直すよう助言する。 □書いた文を「は」「へ」「を」などの助詞に注意しながら、指導者とともに、声に出して読み直す。 □「おへんじカード」を指導者とともに読み、本単元でがんばったことについて考えられるように助言し、「書くこと」に対して意欲をもてるようにする。

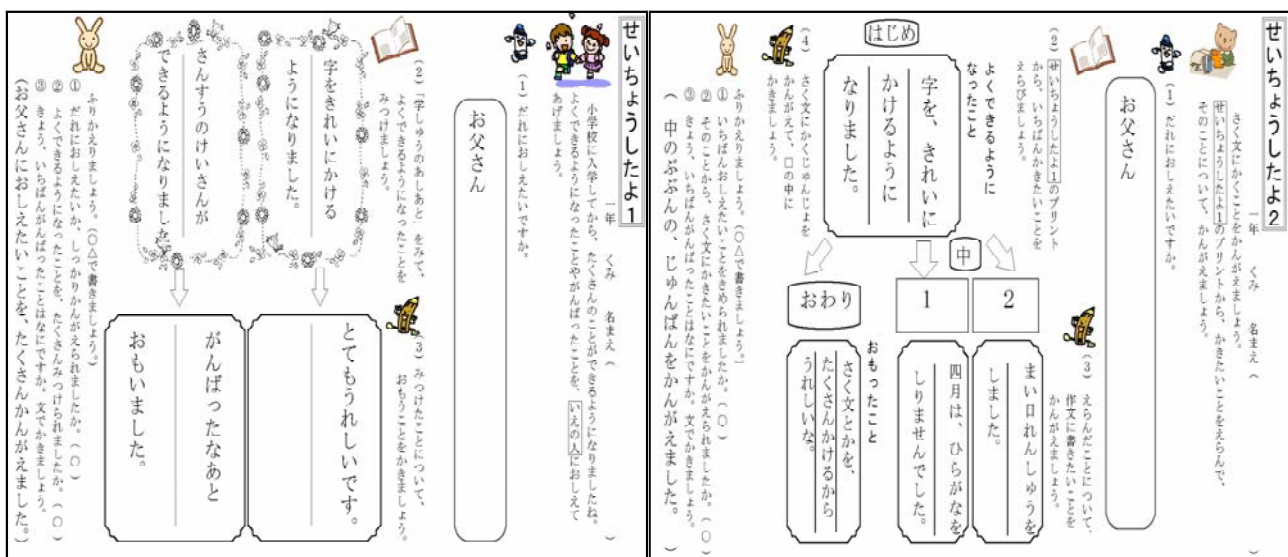


図1 作成したワークシート「作文メモ」

図2 作成したワークシート「組立てメモ」

## 5 研究の成果と考察

### (1) 能力表の作成

「説明文」を中心とした「書くこと」の能力表を作成した。学校現場において指導を行う際に、学年に応じて身に付けさせるべき能力と系統を明らかにすることができた。

### (2) 年間指導計画の作成

6年分の年間指導計画を作成することによって、児童の実態を、身に付けている能力と学習経験との両方から把握することができ、児童の実態に即した指導を行うことができる。更に、その単元において身に付けた能力が、以降どのような学習を通して発展していくのかを知ることができ、見通しをもって指導を行うことができると考える。

### (3) 単元構想

指導と評価の一体化に着目し、取材・構成段階ではワークシートを作成するなど、指導上工夫すべき点を明らかにすることができた。

## 6 今後の課題

今後は、小学校で実践を重ねることにより、作成した能力表や年間指導計画、単元の構想等について、更なる修正を試みたい。

## 参考・引用文献

- |     |   |             |           |
|-----|---|-------------|-----------|
| (1) | 小学校学習指導要領・国語科編（試案）                                      | 文部省         | 昭26       |
| (2) | 国語教育研究大辞典   | 国語教育研究所編    | 明治図書 1988 |
| (3) | 「作文技術」指導大事典   | 国語教育研究所編    | 明治図書 1996 |
| (4) | 国語教育辞典  | 日本国語教育学会編   | 朝倉書店 2001 |
| (5) | 伝え合う力を高める「書くこと」の学習（「実践国語研究」No. 205）                     | 小森茂         | 明治図書 2000 |
| (6) | 第32回全日本中学校国語教育研究協議会奈良大会・<br>奈良県国語教育研究会奈良大会50周年記念大会・大会紀要 | 奈良県国語教育研究会編 | 平15       |

2	1			1	学年
1	3			2	学期
かんさつしたことをかこう	一年かんのせいちようをいえよう	音をあつめてさくぶんをかこう	のりもののかごとをしらべて、おしえよう	つたえよう	単元名
③ 既習の漢字を適切に用いて書く。	① 目的を考えて取材しようとする。 ② 観察したことについて、事柄のまとまりを考えながら書く。 ③ 既習の漢字を適切に用いて書く。	① 意欲的に書くための事柄を見付けようとする。 ② 短い文章で説明する。主語・述語の関係に注意して書く。 ③ 意欲的に、伝える材料を集めようとする。 ② 順序を意識して書く。 ③ 助詞を正しく使う。	① 目的を考えて書くこととする。 ② 事柄のまとまりを考えて、段落に分けて書く。 ③ 学習した文字を適切に用いて書く。	① 書く題材について、意欲的に取材しようとする。 ② 経験したことの順序に沿って書く。 ③ 書いた文章を声に出して読み返す。	① 文字を正しく整えて書写する。 ② 丁寧に書写する。
④ ③ 観察したことを分かりやすく説明する。 ④ 読み手の立場に立って書いた文章を読み、間違いを正したり、必要な事柄を付け加えたりする。	① 身近な生き物を観察し、気付いた事柄や、知らせたい事柄をメモに書く。 ② メモの中から知らせたい事柄を選び、組立てを考える。 ③ 観察したことを分かりやすく説明する。 ④ 読み手の立場に立って書いた文章を読み、間違いを正したり、必要な事柄を付け加えたりする。	① 書く題材に必要な事柄を集め、メモを書く。 ② メモを基にして、必要な事柄を取り出したり、順序を考えたりする。 ③ 事柄の順序を考えながら書く。 ④ 文章を読み返し、必要に応じて修正する。 ⑤ 学習のまとめと、振り返りをする。	① 調べたい乗り物を決め、本などで、働きやつくりについて調べる。 ② 調べた事柄をメモに書く。 ③ 簡単な組立てを考えて、乗り物の働きやつくりを説明する文章を書く。 ④ 書いたものを、間違いがないか確かめる目的で声に出して読む。 ⑤ 友達の文章を読み、感想を伝える。	① 休み時間にしたことの中から、知らせたいことを選ぶ。 ② 友達に伝える目的で、書くことを決める。 ③ 書いたものを声に出して読む。 ④ 作文を友達と交換して読み合う。	① 短い語や文を見て書き写す。 ② 語句や簡単な文を聴いて書く。 ③ 既に暗記している語句・短い文などを何も見ないで書く。
言書関 身近な生き物について、進んで観察しようとしている。目的を明確にして取材したことをメモに書いてある。 書 書いた文章を声に出して読み、必要に応じて間違いを正したり、付け加えたりしている。 言 既習の漢字を適切に用いて書いてある。	言書関 一年間の成長を振り返り、家族に伝える目的で、進んで材料を集めようとしている。 書 メモから必要な事柄を取り出し、順序を考えて書いている。 言 「は」「へ」と「を」などの助詞を、文中で正しく使っている。	言書関 音に関心をもって、身の回りから書く事柄を集めようとしている。 書 短い文章で、自分が見付けた音について説明をしている。 言 主語と述語が照応するように書いている。	言書関 調べたい乗り物を決め、働きやつくりについて説明をする目的で、進んで活動しようとしている。 書 乗り物の働きやつくりなどのまとまりを考え、段落に分けて書いている。 言 学習した平仮名や片仮名を適切に用いている。	言書関 休み時間の出来事を学級のみんなに知らせることに意欲をもって取り組もうとしている。 書 休み時間に経験したことを、順序よく書いてある。 言 書いた文章を声に出して読み返している。	言書関 進んで書くようとしている。 書 正確に書いている。 言 文字の形に注意して書いている。
オエエウイア (1)(3)(2)(3)(1)(2) 1 42 5 2 1 5	エエウイイア (3)(2)(2)(1)(1) 48 6 11 8 1 1	オエエイア (5)(3)(2)(1)(2) 48 56 7 2 5	オエエウイア (1)(3)(2)(2)(1)(1) 4 43 8 5 11 2 1 1	オエエウイア (1)(3)(2)(2)(1)(1) 4 43 6 11 2 1	エエ (3)(3) 65 63
12	8	6	8	4	能力表との関連・太字は特に身に付けさせた能力